

消防計画

平成 年 月 日

1 防火管理組織(管理組合自治会等の役員名と電話番号を記入する。)

組合長等	副組合長等	防火管理者		
棟 室	棟 室	棟 室	棟 室	棟 室
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
電話	電話	電話	電話	電話
棟 室	棟 室	棟 室	棟 室	棟 室
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
電話	電話	電話	電話	電話

(本書で書けなければ別紙を貼付してください。)

2 自衛消防組織図

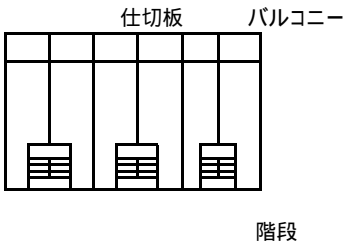
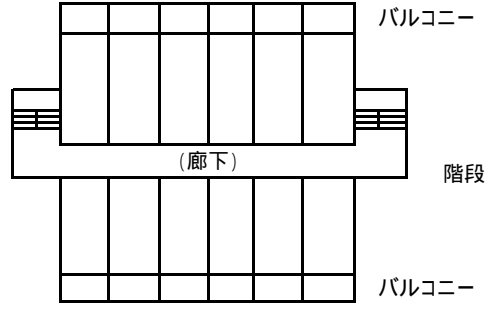
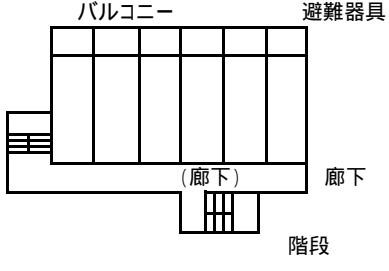
	各棟防火役員			
自治会長	号棟 号室	氏名	氏名	氏名
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
電話	電話	電話	電話	電話
副会長	号棟 号室	氏名	氏名	氏名
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
電話	電話	電話	電話	電話
防火管理者 (防火担当役員)	号棟 号室	氏名	氏名	氏名
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
電話	電話	電話	電話	電話
	号棟 号室	氏名	氏名	氏名
	氏名	氏名	氏名	氏名
	電話	電話	電話	電話

(本書で書けなければ別紙を貼付してください。)

2-2 自衛消防組織(棟ごとに、各階又は階段室単位の責任者を決めて記入する。)

	()	()	()	()
階 室	氏名	氏名	氏名	氏名
氏名	電話	電話	電話	電話
電話	氏名	氏名	氏名	氏名
	氏名	氏名	氏名	氏名
	電話	電話	電話	電話

(本書で書けなければ別紙を貼付してください。)

3 避 難 計 画 概 要	<p>火災を発見した場合は大声で各住戸の扉をたたか、又は非常ベルの押しボタンを押し、火災を知らせる。</p> <p>避難はまず、火災の影響のない階段を使用する。</p> <p>廊下又は階段に煙が充満し、これらが使用できない時は、バルコニーの仕切板を破壊し避難する。又は、安全な場所で救助を待つ(バルコニーの仕切板は簡単に破れる構造となっているので緊急時の避難経路とする。)</p> <p>どちらもできない時は玄関扉、窓を固く閉め、煙や炎が入らないようにして消防隊の救助を待つ。非常ベルが鳴ったら避難準備をし、避難時にはエレベーターを使用しない。</p> <p>一度避難したら二度と出火建物に入らない。</p>
	<p>階段室型</p>  <p>階段</p> <p>2方向避難経路</p> <p>中廊下型</p>  <p>階段</p> <p>を 実 施</p> <p>を 実 施</p>
	<p>片廊下型</p>  <p>階段</p> <p>を 実 施</p> <p>を 実 施</p>
4 避 難 通 路 等 の 確 保	<p>バルコニーには物置などの避難の障害になるものは置かない。</p> <p>バルコニーの手すりに植木鉢などの落下の危険性のあるものは置かない。</p> <p>階段、廊下などに灯油缶など可燃物や自転車等避難の障害になるものは置かない。</p> <p>留守をする場合は、なるべくベランダの干し物は、取り込むようにする。</p> <p>避難の際には、できる限り玄関扉、窓を閉める。</p> <p>を 実 施</p>
5 通 報 連 絡	<p>通報先は119とする。</p> <p>通報方法は自宅電話又は携帯電話とする。</p> <p>公衆電話の場合は、場所、使用方法を予め確認しておく。</p> <p>火元はあわてているので、隣近所から通報することも考えておく必要がある。</p> <p>通報内容を定めておく。</p> <p>を 実 施</p>

6 消火活動	消火器の位置を平素から確認しておく。 水バケツの位置を平素から確認しておく。 水道ホースの位置を平素から確認しておく。 上記消火器等を用いて初期消火に努めるとともに、火災状況に注意し、避難時機を失しないようにする。 みだりに窓などを破壊しないようにし、避難するときは玄関扉を必ず閉める。 屋内消火栓については、消火器使用と同時に放水体制をとり、早期に使用する。操作順序は、消火栓箱に貼付された操作方法による。 ホースのねじれ、折り曲げ等に注意する。			
	を実施			
7 消防隊誘導	消防車両進入障害を除去する。 夜間不法駐車を禁止するようにする。 消防隊員を誘導する。 連結送水管の送水口へ消防隊を誘導する。			
	を実施			
8 避難・通報・消火訓練計画	・消防訓練の内容は次のとおりとする。 消火器訓練は消火器による模擬火災の消火をする。 水バケツ、水道ホースによる消火訓練(手近な水を利用して消火する。) 屋内消火栓による操作、放水訓練をする。 通報訓練(自宅電話、公衆電話による119への通報訓練をする。) 避難訓練(避難器具の使用、非常ベルの使用、各室から扉、窓を閉鎖しての避難訓練等を行う。) 総合消防訓練(消防隊等と協力して訓練を行う。)	・訓練実施上の注意事項 消防訓練は写真等でできるだけ記録しておく。 随時又は新規入居者等に必要に応じ防災教育を行う。 訓練実施時には予め消防機関に通報する。 特に避難訓練については安全上の配慮を行う。 消火訓練及び避難訓練を(年1回、年2回)以上実施する。		
		訓練実施時期	月 月	
	を実施		を実施	
	9 設備等の点検計画又は特殊消防用	消防用設備等の法定点検(6か月ごとに機器点検、1年ごとに総合点検)を行い、その点検結果を維持台帳に記録し、年に1回、消防機関に報告する。 特殊消防用設備等の点検は、設備等設置維持計画に定める期間ごとに行い、その点検結果を維持台帳に記録し、設備等設置維持計画に定める点検の結果についての報告の期間ごとに消防機関に報告する。 上記 又は の自主点検を行い設備の維持管理をし、日常の自主点検の内容、方法等は社(店)内防火規則に定める。 上記の法定点検は(自社、委託)で行い、委託の場合の委託先は右のとおりである。	設 備 名	設置は 印
消 火 器				
屋 内 消 火 栓				
非 常 警 報 設 備				
漏 電 火 災 警 報 器				
自 動 火 災 報 知 設 備				
避 難 器 具				
連 結 送 水 管				
を実施				
特記事項				

	方 式	常 駐	巡 回	遠 隔 移 報
	10 防 火 管 理 業 務 の 委 託 状 況	管理権原者氏名		
受託者の氏名(名称) 及び住所(所在地)		氏 名 (名 称) 住 所 (所在地) 電 話		
(法人にあっては、 名称及び主たる 事務所の所在地)		担当事務所 名 称 所 在 地 電 話		
受託者の行う防火 管理業務		火気使用箇所の点検等監視業務 避難又は防火上必要な構造及び設備の維持管理 火災が発生した場合の初期消火、通報連絡及び避難誘導 周囲の可燃物の管理 巡回による火気使用箇所の点検管理確認 火災を発見した場合の初期消火、通報連絡 火災異状の遠隔監視及び現場確認業務 その他 ()	常 常 常 常 巡 巡 巡 遠 遠 常 巡 遠	
を行う				
受託者の行う防火 管理業務の方法	勤務場所	保安室	常	
	常駐人員	休業日	人	従業時間内 人 従業時間外 人 常
	委託区域	全域・部分	常 巡 遠	
	委託時間帯		常 巡 遠	
	巡回回数・人員	回	人	巡
	待機場所・所要時間			分 遠
を行う				